

1

39

平成23年8月

社会福祉法人梨雲福祉会
特別養護老人ホーム梨雲苑



立山

き心よりお礼申し上げます。また前理事長西能正一郎を偲ぶ会も盛大におえることができ、遺言が無事に遂行できたこと皆様に感謝申し上げます。

さて、この文章を書いている今世の中は、サッカーレディースワールドカップドイツ大会でのなでしこジャパンの歴史的快挙に大変盛り上がりしている。大震災により沈んでいた我々日本人の気持ちをぐっと持ち上げてくれただけではなく、日本女子の奮闘に心洗われる気分である。草食男子、肉食女子と最近良く耳にするが、周りを見渡しても男性より女性のほうが元気があるよう思うのは私だけであろうか。我が梨雲福祉会は圧倒的に女性職員が多く特に介護の現場は若い女性が多い。女性陣は元気にあふれ、おやつ作りから身の回りのお世話まで上手にこなせるので、私もこの歳になり2児の母親となつた。外科医で勤務していた頃は、女医というだけでちゃんと仕事ができるのか、という目で見られたり、変に気を遣われたり差別的なことは実際多かった。その頃は自分が子供はおろか結婚する気もなかった。外科医で勤務していた頃は、女医とすることも想像もできなかつたが、今自分が妻、母、医師、理事長と4足の草鞋を履いて思っているのは、女性は何しろ大変だ、ということである。子供が病気になつた時、仕事の終わりが遅くなつた時、心の中で主人と子供たちに謝りながら、日々せかされながら動いている。なんでこんなに時間が足りないのだろう、一日が四十八時間あつたらいいのに、と思う。同じ同じ職場で働くなでしこ達にはプライベートを充実させ、それを活力の一層頑張つてほしいと心から思う。またその頑張りにエールを送りできるだけのサポートをしていきたいと考えている。もちろん梨雲福祉会の待たちの健闘は言うまでもないことを申し添えておきたい。



理事長 林 一枝

ごあいさつ

まずははじめに、先日行われた特別養護老人ホーム梨雲苑二十周年記念講演会、並びに祝賀会に多数ご参加をいただき心よりお礼申し上げます。

さて、この文章を書いている今世の中は、サッカーレディースワールドカップドイツ大会でのなでしこジャパンの歴史的快挙に大変盛り上がりしている。大震災により沈んでいた我々日本人の気持ちをぐっと持ち上げてくれただけではなく、日本女子の奮闘に心洗われる気分である。草食男子、肉食女子と最近良く耳にするが、周りを見渡しても男性より女性のほうが元気があるよう思うのは私だけであろうか。我が梨雲福祉会は圧倒的に女性職員が多く特に介護の現場は若い女性が多い。女性陣は元気にあふれ、おやつ作りから身の回りのお世話まで上手にこなせるので、私もこの歳になり2児の母親となつた。外科医で勤務していた頃は、女医とすることも想像もできなかつたが、今自分が妻、母、医師、理事長と4足の草鞋を履いて思っているのは、女性は何しろ大変だ、ということである。子供が病気になつた時、仕事の終わりが遅くなつた時、心の中で主人と子供たちに謝りながら、日々せかされながら動いている。なんでこんなに時間が足りないのだろう、一日が四十八時間あつたらいいのに、と思う。同じ同じ職場で働くなでしこ達にはプライベートを充実させ、それを活力の一層頑張つてほしいと心から思う。またその頑張りにエールを送りできるだけのサポートをしていきたいと考えている。もちろん梨雲福祉会の待たちの健闘は言うまでもないことを申し添えておきたい。



記念講演会
演題 「明日を素敵に生きるには」

タレンント・エッセイスト
安藤 和津 氏

特別養護老人ホーム梨雲苑 開設二十周年記念

社会福祉法人 梨雲福祉会

平成二十三年六月十五日(水)

在宅介護について考える

社会福祉法人 梨雲福祉会

監事 中林伸男

過日梨雲苑創業二十周年を記念し、タレント、文化人の安藤和津さんの特別講演を拝聴する機会を得た。少子高齢化が急激な勢いで進行する中、独居老人や高齢者夫婦のみの世帯が増加し、又私自身が地域の社会福祉協議会のお世話をすることから、大きな関心を持って拝聴した。

安藤さんが永年お母さんの介護をされて居た事を以前から知つて居た事から大変参考になりました。私たちの世代は我が家で誕生し祖母を家で家族の中で見送り致しました。人生の終焉を数日の間でも結構、我が家の置の上で子や孫の輪の中で彼岸に渡る事が最大の贅沢かも知れないが、私の願望だと常日頃話をして居る。

病院若しくは施設で生涯を閉じる人が多く又介護を受け家族の手から離れることを好むと好まざる限らず介護に任せきりの人が多く介護保険が逼迫して居る中、国の政策が、在宅介護の道を推進して居る。

昨年富山県黒部地区で国のモデル地区として医師会、薬剤師会、看護協会と地域施設の介護士の皆様が一団に協力体制を組み「ターミナルケア」を実施した富山形式が本年全国各地で実施され、社会福祉協議会でも包括支援センターに協力依頼が参つて居ります。

私は今少年の頃妹・弟の誕生の折産気づいた母の要求で隣村の産婆さん宅へ自転車で急ぎ、夜半母の苦労の声を隣室で祖母や家族と手を合せ待ち続け、やがて新生児の元気な産声に万歳と叫んだものだし、冬の寒い日に祖母が我が家部屋で一族が集り見送った、大変厳肅な記憶が蘇つた。これが「絆」の第一歩で、人生で最も大切な事だと信じています。

二十周年の永年勤続職員の皆さん

二十年振り返って

二十周年を迎えて

結城佳世子

梨雲苑二十周年おめでとうございます。梨雲苑と共に二十年迎えられたことに感謝いたします。二十年を振り返ると様々なことが思い出されます。初めて迎えた入居者のこと、介護する度に「ありがとうございます」と感謝されるうれしさ。また、バケツとブラシを持つてのトイレ掃除、掃除機を持つてかけ回った居室。夏には汗だくになりました。変わったことでも今では楽しい想い出です。

現在、居宅介護支援事業所に移動し八年になります。どんな時でも聞く姿勢、笑顔で対応を忘れずに、在宅高齢者やその家族に信頼され、最後には「ありがとうございます」と言ってもらえるように努力しています。これからも梨雲苑と共に歩んでいけるようにならなければいけないと思います。



職員のおわら踊り



マジックに驚く安藤さん



職員のフラメンコ披露

職員のおわら踊り



新入職員の紹介

「珈琲どうですか」「豆から淹れましょうか」将来、そんな声をかけてくれるやさしい誰かに介護されることが希望に抱きながら、二十一日目からも頑張ります。

二十周年を迎えて

結城 誉博

二十年と長い時をともに歩み、出会い、別れ、また、経験をし、梨雲苑と共に成長できたことを嬉しく思います。また、今後の梨雲苑の発展に貢献出来るよう自分自身も成長し、利用者、地域の方から信頼、安心出来る施設を目指し頑張って行きたいと思います。

二十周年を迎えて

平本隆子

突然ですが、珈琲が好きです。傍らに置いてこの原稿に向かっています。振り返る二十年。沢山の思い出があります。新人研修として、学生時代に神奈川県へ行つたこと。ピンク色の制服が苦手だったこと。初日の勤務は夜勤で、とても緊張したこと。

本当に忙しく、瞬く間に歳月はながれました。介護は、生きている実感への支援であると気付きました。そして、どう介護されたいか、本気で考えるようになりました。大切な人やこと、ものをずっと大切にできる環境を願います。

そんなことを考えていると、日々、自分自身がどのような姿勢で、何に目に向けて仕事をすべきか、答える見つかり、背中を押されます。

「珈琲どうですか」「豆から淹れましょうか」将来、そんな声をかけてくれるやさしい誰かに介護されることが希望に抱きながら、二十一日目からも頑張ります。

二十周年を迎えて

朝野真紀子

平成三年、梨雲苑開苑当時の私は、学校を卒業したばかりで右も左も分からず、実習先で学んでいた事を見よう見まねで実践しながら、毎日が試行錯誤の連続でした。要領を得ず、バタバタと動き回る私を見て、利用者様は「ちょっとこし休まれ。」とやさしく声を掛けて下さいました。そんな時、利用者様の隣に座つて一休みすると、何とも言えない温かくてほつとした気持ちになったのを覚えています。

二十年間はあつという間でしたが、年月を経て、自分自身も子供を持つたり、親の介護を経験したりしたことで見えてきた事も多くあります。この仕事にやりがいを感じています。これからも仕事を通じて、成長し続けていきたく思います。

二十周年を迎えて

結城佳世子

梨雲苑二十周年おめでとうございます。梨雲苑と共に二十年迎えられたことに感謝いたします。二十年を振り返ると様々なことが思い出されます。初めて迎えた入居者のこと、介護する度に「ありがとうございます」と感謝されるうれしさ。また、バケツとブラシを持つてのトイレ掃除、掃除機を持つてかけ回った居室。夏には汗だくになりました。変わったことでも今では楽しい想い出です。

現在、居宅介護支援事業所に移動し八年になります。どんな時でも聞く姿勢、笑顔で対応を忘れずに、在宅高齢者やその家族に信頼され、最後には「ありがとうございます」と言ってもらえるように努力しています。これからも梨雲苑と共に歩んでいけるようにならなければいけないと思います。



西能正一郎先生 偲ぶ会



前理事長の誕生日である七月十日。

当法人の理事、川岸利光様・梅野守雄様・野上浩太郎様が発起人となつて「西能正一郎先生を偲ぶ会」が高志会館で開かれました。

「盛大な偲ぶ会を本当に心が通じ合つていた人達だけでやつて欲しい」という生前よく口についていた前理事長の言葉通り、親交の厚かつた方々が集い、

前理事長を偲びながら心温まる会となりました。

海軍兵学校での経験を生涯の糧として生きぬかれた前理事長を慕い、富山県隊友会剣部の皆様と知的障害者音楽GPラブバンド代表濱田興隆様が、軍艦旗の掲架、軍歌を献樂し



ていただき、前理事長が生前好きだった美空ひばりの歌を第一回北日本民謡大賞の中田好美さんに歌つていただきたりと、前理事長が顔をほころばせて喜んでいる様子が目に浮かぶ様な会でした。前理事長の古くからのご友人の皆様に、思い出をお話していただき、生後一ヶ月からお亡くなりになる一週間前の前理事長のお写真を集めて作った





お礼の言葉より

理事長 林 一枝

皆様本日は御多忙のことろ、また遠方よりも多数、前理事長 西能正一郎の偲ぶ会にお集まりいただきありがとうございます。本来ならば公的なご挨拶が適当かと思われますが、今日は娘としての立場でお話させていただきと存じます。

父が自分の死後のこと、具体的には、葬儀は護国神社梅野宮司にお願いし後々に偲ぶ会をしてほしい、と口にしたのは約三年前主人と私のクリニックの開院記念パーティの席でした。めでたい席で梅野宮司に真顔でお願いしており梅野さんの困った顔が昨日のことのように思い出されます。そのままのすぐ後日、クリニックの開業準備のための機械の試運転で父のお腹のCT撮影を行い、その写真には脾臓の腫瘍及び肝臓にも多数の転移と思われる腫瘍がみつかりました。その数年前に脳梗塞での手術も受けており、その頃より血糖値は高めだったのですが、母も私も主人も大学のえらい先生にみてもらっているから大丈夫だろうと安心しきっていたのですが、実際にはお腹の検査もほぼしたことになかったというお粗末な話でした。

ただ先生を責めてばかりもいられず、それから私は大学病院とクリニックでの抗癌剤治療が始まりました。父には癌であることは伏せていましたが、私達には何も聞かず「次郎くんと一枝に任せた」と淡淡と治療を受けていました。十一月に発見し春までもない、と言わされた父の体は、薬とうまくつきあうことができたためか、半年、一年と引き伸ばされていました。治療が続けられていく中で梨雲苑への勤務も困難になってきたため、一度だけ「私にできることがあれば手伝うから無理

しないで」と声をかけたことがありました。その時父はどこにそんな力があったのかと思えるくらい激高し「お前はわしの気持ちが全くわかつていない。どんな気持ちで西能病院を辞めさせられたかわからんのか」と怒鳴られました。自分が主人とクリニックをつくり、梨雲苑の理事長となつた今わかつたことは自分の手がけた建物、父の場合でき、職員は家族のような気持ちが芽生えてくるということでした。父が自分のつくった病院をどんなに大切に思つてきたか、そしてそこを辞めなくてはならなくなつたときどんなに絶望したか、あらためて気付かされました。父は亡くなる当日まで梨雲苑へ出勤することを望んでおり、それを励みに治療へむかつっていたように思います。

父自身の生命力又周りの助けにより平衡を保つていた父の命は、平成二十一年十一月十八日午後五時三十分 父の望みで私たちのクリニックの一室で息をひきとりました。呼吸が荒くなり会話ができなくなつてしまつても父が愛してやまなかつた軍歌を口ずさみ、いろいろありましたが最後には父のことを本当に大切に思つてくださる方々に囲まれ、皆に感謝の言葉を告げながら旅立ちました。

最後になりましたが、本日偲ぶ会開催にあたり、葬儀より一環してご協力いただいている高岡整志会病院理事長の川岸先生、梅野宮司様、野上様をはじめとする梨雲福祉会理事評議員の皆様、今回何度もなく練習を重ねて下さった隊友会の皆様、ラブバンドの濱田様、素晴らしいお歌をご披露いただいた中田様、又お集まりいただいた皆様に心よりお礼申し上げます。あと内輪事になりますが、母は父が喜んでくれるようにこの偲ぶ会を成功させたいと心をくだいてまいりました。母にもご苦労様と言いたいと思います。

父が亡くなつてから私は医師として、娘として、もう少し父に何かしてあげられたのではないか、と、父の最期の迎え方はあれで良かったのかと何度も思い返しております。しかし本日このようないうに考えてみると、父は晩年は意にそぐわないことも多くありました。父が会いたかったであろう方々に、お集まりいましたが、医師として地域に貢献し自分の信念を貫くことができた幸せな人生であったと思います。

父が亡くなつてから私は医師として、娘として、もう少し父に何かしてあげられたのではないか、と、父の最期の迎え方はあれで良かったのかと何度も思い返しております。しかし本日このようないうに父が会いたかったであろう方々に、お集まりいましたが、医師として地域に貢献し自分の信念を貫くことができた幸せな人生であったと思います。故人生前賜りましたご厚情に深く感謝すると共に志新たに梨雲福祉会の発展に力を注ぐことをお誓い申し上げ御礼のあいさつをいたします。本日は誠にありがとうございました。



特に体調を崩すことが多かつた最近の数年は仕事面よりも家族、特に孫たちと過ごす時間が父の樂しみとなつていました。ずっと忙しすぎるくらい働いていた父がゆつたりとした時間を持つことができて良かつたなあと心から思います。

父に残されたものは梨雲福祉会だけであり幸せなことに娘の私が引き継がさせていただいております。常々「このような施設はこれからもっと必要とされる」「地域の方を大切にしなさい」と父は申しております。去る者は日々に疎し、と言いますがこの梨雲福祉会を発展させ、父の思いを生かしていくことが何よりも父が喜ぶことではないかと思います。梨雲苑に根付いている福祉の気持ちの中に父は生きていると信じ今後も努力していきたいと思います。

恩びのことば

「西能正一郎先生を 恩ぶ会」に寄せて

社会福祉法人 梨雲福祉会 理事
高岡整志会病院 理事長・院長

川 岸 利 光

謹んで西能正一郎先生の御逝去を悼み、先生の偉大な御功績に対し心から敬意を表し、新たに追想しながら、皆さんと思い出を語り合い、「故西能正一郎先生」が何時までも私共の心に残るような会でありますようにと祈念致します。

先生は昭和三年に、両親が教師の七人兄弟の長男として、現在の富山県南砺市にお生まれになりました。幼少の頃から優等生で、高岡中学を卒業後、当時最も受験が難関であった海軍兵学校に入学されました。海兵入学後約四ヶ月で終戦となりました。この間先生は人間として、国民としての生き方など徹底的に海軍魂を植えつけられ、生涯先生の逆境に負けない強靭な精神力の源となつたと思います。

戦後復員して、当時の地方の劣悪な医療状況をまのあたりにして、医師を目指し、一念発起し弘前医科大学入学、昭和二十八年三月に卒業され當時の整形外科教授諸富武文先生に師事し、整形外科になつてから、先生の幼少の頃から培われた努力と精神力そして卓越した才能が開花して、破

竹のご活躍が始まりました。

昭和三十三年五月に弘前大学医学部講師に昇任され、昭和三十三年七月には医学博士を取得されました。昭和三十四年七月に富山県農協滑川病院

整形外科医長に就任、そして昭和三十七年三月富山市星井町に西能整形外科医院を開業、翌年昭和三十八年十二月富山市五福に移転し、西能整形外科病院として新たに大きくスタートし、その後病院の最高責任者、院長、理事長として平成十二年

五月まで約四十年間、病院の発展に精力的にご尽力されました。先生自ら整形外科専門医として全国でも類の無い、多数のそして難しい症例の手術患者を扱い、その術後成績も日本のトップレベルでございました。

一方平成三年六月から社会福祉法人梨雲福祉会理事長として地域医療にも貢献され、平成二十一一年十一月十八日までお勤めになられ、八十一歳の生涯を閉じられました。この間、富山市医師会理事、全日本病院協会代議員、日本病院会常任理事、日本整形外科学会評議員など数々の要職を務められました。

私は先生の後ろ姿を見て整形外科医を目指し、そして先生には若輩の頃から大変御世話をなりました。西能先生、どうぞ安らかにお眠りください。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



医療技術と業績は誠に偉大であります。富山県といふよりも、北陸N.O.の「神の手」整形外科医として数多くの患者さんを治療し、全国の整形外科専門医も絶賛しました。

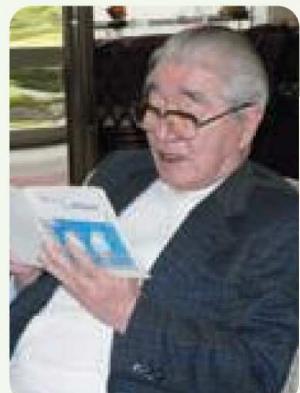
特に昭和四十八年と昭和五十年の二回にわたり日本整形外科学会学術総会で「腰椎前方固定術」に関する論文を発表されました。日常多忙な開業医が、それも大学病院を凌ぐ症例数、手術時間、手術成績を聞き、座長以下会場の多数は先生の発表に圧倒されかつ賞賛しました。先生は偉大な整形外科医でしたが、私のような若輩にもいつも誠意を持ってご指導頂きました。また国家の二十年以上にわたる厳しい医療政策で、医療崩壊が進む中、病院経営者としてもその才能を發揮され、西能病院は進歩発展しましたが、患者さんの治療にはいつも真摯に取り組み、職員には常に優しく、時に厳しくヒューマニズム溢れるお人柄でした。

先生の残された数々のご教訓を糧として、私共医療人は患者さんの治療・看護・介護等には精一杯取り組み、社会に貢献することをお誓い申し上げます。

また先生が巨額の私財を投じられた梨雲苑は愛娘一枝先生が理事長に就任され、神田施設長及び全職員が支え、益々業績を伸ばし、発展しております。また私共理事、評議員が力を合わせ、懸命に梨雲苑の発展に尽力致します。



在りの日 西能先生



最近の様子から…

ホームの行事



●毎月二回行われる(生け花サークル)は毎回大人気ですZ
富山のボランティアさんが中心となり、華やかな花まつりになりました。花御堂に誕生仏をまつり甘茶をおかけして祝いしました。



●四月の行事といえば花まつり!梨雲苑では、四月二十七日にビハーラ



●七夕風景
七夕にちなんで、涼しげにそうめん、天の川風盛り合わせ、それだけでは足りず散らし寿司!夏野菜のてんぶら!の豪華な昼食を召し上がつていただきました。職員も浴衣に着



—日本人で桜が嫌いな人はおらんちゃ!—と参加者からの笑い声が見られた春の一日でした。



●夏野菜収穫祭
夏野菜の収穫の時期になりました!
なすび、トマト、きゅうり、モロヘイヤ等…。自分達の手で育て、自分で調理した夏野菜をいっぱい食べて暑い夏を乗り切りましょう!



表の杉田さんからのクラリネット演奏。
入居者代表中林さんのピアノ演奏を楽しみ、短冊に願いを吊るし皆で願いを届くよう願いまし



短期入所を利用されることは、慣れ親しんだ家族様と離れて暮らすことであり、家族様として利用者の方々にとつて不安や心配も大きいことと思いま。それは大きな課題です。
個々に合わせた生活援助を行って、生け花、おやつ作り、ドライブなどのレクリエーションや毎日の職員とのコミュニケーションを取り入れることにより、少しでも彩りを添えられるように努めています。
また、在宅生活をされる方にとつて大切な残存機能を活かせられるよう、毎日体操の機会を設けており、いかに良いケアに努められるか工夫を凝らしています。

ショートの行事

感じじる、見応えのある作品ばかりで

替え、家族代

デイサービスの行事



※三塚コーラスドレミの会様

ケーキもあるよ。
どっちに
しようかな…



●呉羽・老田・
寒江・東山保育
所より、毎月園
児の皆さんが交
流に来てくれま
す。

元気いっぱい
の歌や踊りを見
せてもらったり、
一緒に手遊びを
したりしている
と、利用者様も
自然に笑顔が出
てきます。



●氷を
浮かべた
樽そうめん。
利用者に大人気！
色つきそうめんを見て、
「どうやつて作るの？」と
尋ねられる利用者の姿も…。



●好例のバイキン
グです。今回は「七
夕バイキング」と
称して季節にちなんだ
献立や食材で趣向を凝
らして企画しています。
毎回おいしかったよ！
と声をかけて頂き、大
好評です。

食後に行われた
ワゴンバイキング。
やはり1番人気は、
すいか！



現在職員8人（内2名介護支援
専門員兼務）、利用者様の笑顔に
支えられています。私たちも利用者
様に元気を与えるこ
とが出来るよう色々
な企画を利用者
様と共に考え、
より一層楽しい
「さいさい」に
していきたいと
思います。

さいさいの行事

5月下旬、朝刊に『安田城跡に睡蓮の花が咲きました』と綺麗に咲き誇る睡蓮の写真が掲載されました。「睡蓮の花咲いたんだって。今日晴れるとし、行つてこうか。」と職員から提案の声が上がり、出かけることになりました。春の陽気がまだ感じられる絶好のドライブ日和。ささいからは車で5分ほどで、昔とは違った風景を眺めながら現地まで向かいました。現地では新聞を見て来た人々でぎわっていました。ピンク・淡いピンク・白と3色のあざやかな花びらを掘りに咲かせており、利用者様からは感嘆の声もあがっていました。雨の日が続いている週でもあり、2日間のみの実行となりましたが、「いいとこ連れてつてもらつたわあ。」と睡蓮の花に勝る利用者様の素敵な笑顔を見る事ができました。

ささいでは、今回のドライブのように少人数という特色を活かし、臨機応変に計画を立て実行することが出来ます。今後も外出の機会を設け利用者様と共に楽しい時間を過ごしていきたいと思います。

また、毎年恒例の梅干作りも始まりました。梅の香りが漂う中、利用者様から知恵をいただき皆で取り組みました。やはり私達職員とは手つきが違い利用者様は慣れました。手つきで手際よく梅干作りに取り組まれていました。

そうです。

今年もおいしい梅干が出来上がり



「自分で出来る」を続けるために!

梨雲苑ヘルパーセンター

平成十八年度より介護予防サービスのひとつとして「介護予防訪問介護」を行っています。

ホームヘルパーがご家庭に訪問し、調理や掃除などをご本人といっしょに行い、利用者が自分で出来ることが増えるよう支援することを目標としています。

私たちが訪問すると、「普段は何もしたくないけれど、台所に立つて一緒にご飯の支度をしたり、洗濯物を一緒に畳んだりしようと思うわ。」と言ってくださいます。

病気で入院され、自宅に戻られた直後は体調が思わずなく、このサービスのご利用を始めた方々も次第に元気を取り戻し、入院前の生活までに回復される例もたくさんあり、私たちの訪問によって少しでも自立支援のお手伝いが出来たときには本当にうれしく感じます。

今後も皆さまがご自分の家で出来ることを続けられますよう、私たちヘルパーは精いっぱいお手伝いいたします。



▲玄関に転倒予防手すりの取り付け工事



▲玄関アプローチの階段段差の緩和および手すりの取り付け工事

介護保険では認定を受けた利用者に限度額を二十万円として住宅改修を、また、福祉用具の購入に対して十万円の補助を行っています。手すりの取り付けや段差の改修工事、浴室の椅子や踏み台を使うことで、今までの生活を取り戻すことがで

きることになります。

高齢になつて筋力低下とともに歩行が不安定なことは転倒を恐れて行動範囲を狭くし、閉じこもりの生活になることも少なくありません。富山市の高齢者福祉施策で寝たきり予防のための住宅改修支援を行い幅広く改修工事に援助を行なっています。これらの公的支援を受けるためには事前に申請手続きが必要となるため注意が必要です。ケ

アマネジャーは、複雑な申請手続きや改修箇所の高さ、位置などを助言し有効な住宅改修を支援しています。

高齢になるほど健康や環境の不安が増えてきます。住み慣れた家で暮ら続けるには、同じ地域住民の皆さんとの支え合いが大きな力となります。

介護予防に関する説明や体操、栄養講座を地域ごとの公民館に出向いて開催し、高齢者の皆さんのが参加し易いよう配慮しています。参加される皆さんには頬なじみで、世間話や近況報告は不安やストレスが軽減し生活の励みになります。このような集会は地域でも多いわけではなく、次回には入院していることもあります。



▲管理栄養士の栄養講座

適度な外出は運動や交流の機会となり介護予防につながることはよく知られていますが一人ではなかなかできません。そこで地域の皆さん自ら活動できるよう包括支援センターでは地域活動やふれあいサークルの支援、公民館行事への協力を行っています。具体的には、介護予防教室や啓発活動、認知症説明会を開催し地元の公民館や地区センターに集まつてもらう機会を作っています。また、ふれあいサークルの設立・運営の支援、定期訪問で助言も行います。最近では集まりには声をかけられるなど、地域の皆さんのが自分たちで閉じこもりの予防に努めています。

あなたの家は大丈夫?「住宅改修」

梨雲苑居宅介護支援事業所

地域で活動、地域の力を引き出そう

吳羽地域包括支援センター



▲体験前のバイタルチェック



▲パワリハマシンの体験



▲指導員から説明を受けて…



▲体験後のアンケートの記入

八月八日は「パワリハの日」、富山市がすすめる介護予防事業のひとつです。歳とともに身体が動かなくなつてくるのは筋力が衰えるから…、と考えられています。しかし、実際には年齢とともに活動しなくなつた筋肉や神経が眠つてしまつた状態といえます。

そこで、活動しなくなつた筋肉に刺激を与え、再活性化を図ろうというのがパワーリハビリテーション（パワリハ）です。富山市では、マシンを使つたトレーニング効果を広く市民に知つてもらうために八月八日を「パワリハの日」として体验会を開催しています。梨雲苑でも、地域密着事業として富山市の委託を受け、パワリハ設備を導入、利用者や地

域の皆さんに専門スタッフによるトレーニングを行つています。今年の体验会は、長寿会やふれあいサークルの代表、民生委員の皆さんに介護予防の効果を広く知らせてもらおうと参加を頂きました。三十五名の方にご参加頂き、広い機能訓練室もいっぱいになります。準備運動からスタッフの楽しいトークに会場でも笑いが絶えず、本格的なマシントレーニングではまだまだ続けたいとの要望も聞かれ、大盛況のうちに終了となりました。

元気なうちから介護予防、パワリハはそれを使う時に自らが健康を意識できる資源と言えます。地域で有効に使って頂きたいと願う今日この頃です。



笑いと掛け声が楽しい体验会でした。

8月8日(月)は富山「パワリハ」の日



▲BGMを聴きながら参加者全員での準備体操



施工前



施工後



施工前



施工後

屋上防水工事

梨雲苑では先日「屋上の防水修繕工事」が行われました。

本館の屋上の屋根状況も二十年の月日により経年変化で雨漏りが見られるようになりました。こ

の度、財団法人 車両競技公認資金記念財団より助成金をいただき旧館の屋上屋根を全面的に修繕することが出来ました。

修繕工事完了後は雨漏りがしなくなつた事

は勿論の事、耐熱性も優れているようで冷房の効きが良くなりました。

これも、"エコ"にむけた取り組みの一つのような気がします。良い提案と良い施工をいただきました工事関係各位に感謝申し上げます。

東日本大震災における 三月十八日 被災地への救援物資輸送の報告

◎県羽地域包括支援センター 深野 祐次
◎梨雲苑デイサービスセンター 結城 詹博



三月十一日の震災で宮古市社会福祉施設へ、食材料、衣料品、燃料及び介護用品等の救援物資を届けるボランティアに梨雲福祉会として引き受け、その代表として深野・結城の二名が全国社会福祉協議会の東海北陸ブロック青年経営者会に随行しました。

つや介護用品等、物資の補給を行う。
動を開始する。現地までの移動や宿泊のほか災害支援までを最悪の事態まで想定して準備し出発したが、「支援車両」への配慮として、高速道路やガソリンスタンドで十分な協力態勢を取ってくれていた事もあり、渋滞や回り道、燃料補給等で困ることも無く、盛岡市に宿泊、十九日の午前中には現地入りでき、スムーズな支援活動を行うことができました。

被災状況としては宮古市に入り、山間地から下っていくも災害は見られなかつたが、田老町に入ると間もなく津波により壊滅的に破壊された町に圧倒されました。被害は想像以上に大きく、目の高さより上にある多数の大型の船や、目線の下に瓦礫と化した住居や建物など、常識で推し量れるものではなく、被災地の人たちの恐怖や悲しみを共感し感銘しました。その一方で、商店街のみんなが町の後片付けに働く姿は一途で活気があり、誰も泣いている者はなくただ一生懸命でした。その姿勢はとてもたくましく、

14：30 富山西警察署にて緊急支援車両の手続きに立ち寄るが車両確認も簡単で許可証の公布を受け、そのまま、同行する施設、あゆみの郷、に向かい紙おむ

経過



三月十八日午後の出発に際して、理事長をはじめ職員の皆さんようり壮行会を行つてもらい、またデイサービスの利用者様から多く励ましの言葉を頂き、ありがたい思いと責任の重さを感じました。支援車両としては梨雲苑デイサービスセンターの送迎車両ハイエースを使用し、救援物資は当日の午前中に準備された野菜や乾麺などの食材料のほか、以前に立山町の方から寄付して頂いた衣料品類(ダンボール五箱)を積み込みました。

現地の状況

被災状況としては宮古市に入り、山間地から下していくも災害は見られなかつたが、田老町に入ると間もなく津波により壊滅的に破壊された町に圧倒されました。被害は想像以上に大きく、目の高さより上にある多数の大型の船や、目線の下に瓦礫と化した住居や建物など、常識で推し量れるものではなく、被災地の人たちの恐怖や悲しみを共感し感銘しました。その一方で、商店街のみんなが町の後片付けに働く姿は一途で活気があり、誰も泣いている者はなくただ一生懸命でした。その姿勢はとてもたくましく、

人の生きようとする力はすばらしいと感じました。

救援受入

施設はその地域で障害(児)者関連の施設を運営しながら、多くの被災者を支援している社会福祉法人でした。高台にある障害者施設で物資を保管するが、震災後しばらくは水(飲料、トイレ、風呂)が不足していること、電気や燃料が無いことが一番困っている。また被災者は着の身着のままで非難したので下着すら替えられないこと困窮状況を訴えている。



ホームの看護師中村由紀子さんが【ターミナルケアプロセスとチームアプローチ】にて優秀賞をいただきました。

資格取得

★介護支援専門員
糸 豊 水 木 優
平 岡 郁 緒 子
井 綾 佳 世 子
結 城 洋 介

★主任介護支援専門員
金 豊 水 木 優
井 綾 佳 世 子
糸 豊 水 木 優
平 岡 郁 緒 子
結 城 洋 介

東日本大震災の義援金

当法人で入居者様及び利用者様、ご家族様・職員から頂きました義援金を平成23年5月31日付で社会福祉法人 全国社会福祉協議会宛に83,242円
公益社団法人 全国老人福祉施設協議会に83,242円
送金させていただきました。この活動は現在も継続しています。今後も皆様のご協力を宜しくお願ひ致します。

◆発行所◆
社会福祉法人梨雲苑
特別養護老人ホーム梨雲苑

◆発行人◆
理事長 林 一枝
TEL 090-0142
富山市吉作1725
FAX (076)436-2165
E-mail:riun1725@ybb.ne.jp

老施協表彰

富山県老人福祉施設協議会第二十三回研究レポートにおきまして、

